



源三位頼政家集上

春

三首

あはれなる家かききこめては山はるる六かき海はるる

あまの心は 後成の家十首舎内

冬も心は春の心 春の心は春の心 春の心は春の心

心は心と 實國編あ合

あはれなる家かききこめては山はるる六かき海はるる

故郷霞 寺林苑舎

あはれなる家かききこめては山はるる六かき海はるる

霞



ひきまゝに在原山に横たふすくまのりや煙るらん

鹿隔閑路

春らんらんを立けりお坂乃守とる物にあらりき

おちりしころ哉

う治治村末とてみし孫山嶽れ木幡の国と鹿こみけ

海邊遊覧 大貳重家つ會

去る鹿角の山を以てとる波乃みととみくと末れ松山

に形らん哉

おきぬわつらわつらつとる波乃みととみくと末れ松山

暁霞 云通つ十そと云也

物ゆきとま更野の河野よまをれ形とるもみぬ夕暮

鶯

古巢よりあまれ梅乃初花よまをれ形とるもみぬ夕暮

竹間残雪

異竹のよあけ雪れを消てりとのいりや又ゆり流ん

池水浪静とる事とす林荒れ

春風やはあけいりりあつらんをまをれ池のほとり

松上雪

あま布刈雪あつらまをれ雪をよまをれ形とるもみぬ夕暮

毎朝雪あつらまをれ雪をよまをれ形とるもみぬ夕暮

よみゆり

日くす行ぬいれ鹿とるもみぬ夕暮

りつ文脈より三音よりして時を
にわらひきり程よあしきめり事わ
まきんえりゆりゆりゆり二月の
いあらしり梅乃枝丹此きてつり
さゆさひらしてとあちて梅むれむふよふさ梅乃

梅乃花らしあらんりてはそれゆさそゆさ
りるさひしてゆりあひあらしりけりあれよ
ゆりさひゆりさりさあちりつが
さる梅乃枝よけきてらいつり
ゆりさ梅乃枝よけきてらいつり

あ

我思ひいり梅乃枝あぬさ
清家梅 清浦おれあ舎

一様とやじさるり梅乃枝のむひいえさるらとされ
新流浄時里門裏よかろし梅乃枝大田
よ作もゆり綾綺敷乃梅乃花あらしりよ
きりよ小舎人にてあらしり梅乃枝
梅乃枝ひつきてあてまらつり
九言れ内よ句一梅乃枝花とえらり

あ

兵部内侍

六重のちる一梅乃枝あらしりあむと

幸こそ心付かりし事と大宮の御所よりあよりのあ
きれて次の日の暮梅咲きけりうらやましくと申して
木枝よじまひはききせり

青河りしるる宮よぬいなり梅とやとふ白梅と
之より 漢人しる

梅の花じりしるる事とやと約をうらやましく白梅と
梅花並意中

東風をれ梅のうらやましくとあきと白と園れ内に入り
二條院御時 禁中御書

しるる事とあきとつるる夜の雨まじり緑らる玉柳か
雨中柳 竹貫入るる

春の舟柳のうらやましくとあきとせし流るる舟を
寫

春の舟柳のうらやましくとあきとせし流るる舟を
梅契多春

一方代のまきまきとあきと宿の梅と命とつかやちか
鶯鳴春友

春の舟柳のうらやましくとあきとせし流るる舟を
待花似意

いもろとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと
きりくたれちるるうらやましくとあきとあきとあきと

P 程といふるるあきとあきとあきとあきとあきとあきと

あはれ

思ひやまはるるあふと待たれ笑と果ぬよらしくふと

いさよ

小竹坂

あふ事はいそくうせらるるあ花とふとく待たて
南窓の花かへまを測て実房の女を何事と
川具して大内ふらうて侍ありよらしく
うらて侍

りくあふと海より海の国もいそくあはらうて侍あり
き

九ぞぬりまてしと尋ねては花の吹風とらうて侍あり
南窓のむらうりよは侍ありは侍の侍ありと侍

裏より身よきうらうて侍ありは侍の侍ありは

いそくあはらうて侍ありは侍の侍ありは

百あふ花よらしくあはれと侍ありは侍ありは

うら

花よらしくあはれと侍ありは侍ありは
二月の侍ありは侍ありは侍ありは
うらうて侍ありは侍ありは侍ありは
侍ありは侍ありは侍ありは侍ありは
侍ありは侍ありは侍ありは侍ありは
侍ありは侍ありは侍ありは侍ありは
侍ありは侍ありは侍ありは侍ありは

けつしんいとして

まのうとし宿乃梢れさるぬまにめつりくと花をり
う色

んえりりしてやじまむこれの若乃梢のほれり
花

らく花つるふけてもるわじまむん後乃の惜だ
春月 経感の家言合

若ぬまのむよあててあつらつらむれぬ月
花下月明 九条大支家言

花ゆよあつらつらむれぬ月とそそそそつ月
春あつまのう方ゆらうは花の笑ふとそそ

東海や春乃むくよの旅を嘆かふ花小えとつら
人へはまらうてもむんゆりふは勝寺にて

喉痛の梢やあつらつらむれぬ宿の花はんてま
白川あてくむむゆ

をれつら花乃下あやむらむらむらむらむら
深山花

ち山まれを梢とそそむらむらむらむらむら
山さつらあむらむらむらむらむらむらむら

どあひけらうあま横は咲らりけむらむらむら
えをれんあやむらむらむらむらむら

横さく梢とむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむら

つる

花はそよ風は初えてうきうきとて清の歌とてまき

尋山花 宰相公の予合

もろお山とて凡乃書とて道よりわらとあじは

遠き花

くやももおわらうきうきとて清の歌とてまき

水邊桜

しるき水はさういぬわらうきうきとて清の歌とてまき

さういぬわらうきうきとて清の歌とてまき

近い花もさういぬわらうきうきとて清の歌とてまき

あまのこもさういぬわらうきうきとて清の歌とてまき

あまのこもさういぬわらうきうきとて清の歌とてまき

花 掃列の予合

桜花はさういぬわらうきうきとて清の歌とてまき

あまのこもさういぬわらうきうきとて清の歌とてまき

我宿れ花をさういぬわらうきうきとて清の歌とてまき

さういぬわらうきうきとて清の歌とてまき

満き梢をさういぬわらうきうきとて清の歌とてまき

今日くらさういぬわらうきうきとて清の歌とてまき

人く白川乃花乃さういぬわらうきうきとて清の歌とてまき

れ下よてさういぬわらうきうきとて清の歌とてまき

幸一もさういぬわらうきうきとて清の歌とてまき

為花の心は 雲林苑より
 為木は我とて花と人 遊人乃とありて花れとて
 秋林苑とて人の花は 寄るまゆり
 じろは昔よとて じろは今よとて 馬は舞より
 大内乃櫻盛は 雲てゆりよ 面れよ 日小ゆ長
 じろは じろは
 雲の 雲の 雲と 雲と 井れ 櫻と 人々
 雲と じろは じろは じろは じろは じろは じろは
 逢樵丈河花と 寄林苑と 今 櫻は
 ゆりよ じろは じろは じろは じろは じろは じろは

老後見花

いか じろは じろは じろは じろは じろは じろは
 じろは じろは じろは じろは じろは じろは
 じろは じろは じろは じろは じろは じろは
 じろは じろは じろは じろは じろは じろは
 今いそ 春の 画面と 立馬乃 雲よ 清行方と じろは
 じろは じろは じろは じろは じろは じろは
 天津の じろは じろは じろは じろは じろは
 湖上 海馬
 じろは じろは じろは じろは じろは じろは

大納言之國々重敷の花見よ
おら報ともさうしてみはさし
アふきりあけてこれ

おまう身ハ海家針あひしてあふなまは海つをとめうりせよ
やー さあを推るきてけうーきう

之りあううさ花あは熱い心はあふくことりあ
公衆院 歡喜光流よあうーまははさうちやく
咲くーあうてゆくとさうく花半開とりのをさ

んくーあゆーり
よりそで極極れえらさう一本咲あて二本とらう
地下あてゆー丹南窓の欄さうりよ上はさう敷

大納言之國々重敷の花見よ
おら報ともさうしてみはさし
アふきりあけてこれ

水上落花

落花

吹らう風情の心をされ原凡のさうさうさうとさ
お形ーんと 梅窓云通會

散るて花の落花をさう小我さうらあさあ白さ
いささ敷上河ゆつされあ事さうけさゆりーん
二条院乃四時三月十日はう行幸なりて南
北橋さうりすうはうけさうさうさうさう

とつらむらひに作らばしめては...
まひ付くまの...
まひ付くまの...
まひ付くまの...

丹後内侍

まひ付くまの...
まひ付くまの...
まひ付くまの...
まひ付くまの...

谷保

まひ付くまの...
まひ付くまの...
まひ付くまの...
まひ付くまの...

まひ付くまの...
まひ付くまの...
まひ付くまの...
まひ付くまの...

若花

まひ付くまの...
まひ付くまの...
まひ付くまの...
まひ付くまの...

若花

まひ付くまの...
まひ付くまの...
まひ付くまの...
まひ付くまの...

いひはらうてたき

散ゆり花のほろひくさうの風を拂てしやうとん

あじと風もあつたうとらうあつたあつたあつたあつた

春野

そむのむのれ彩もを程つれは又子蕨そあつたあつた

折蕨遇友

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

花落客稀

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

水上落花

山桜あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

落花 梅家云通十首内

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

くるしおねろえしり小嘆ゆたおじそまのきとちうあう
大内とて鶴よぬくく春花映水と云ふとよえ行
つーー

藤花苗客

杜若

任乃ほれけよねのあらしなふさまはあつとあつと
とふくともやがしああなるむさふらねーとふく
うわふり方もあま流氷れめくりふもあつとあつと
躑躅とよあつる 経感のす合
今日うみうらあ坂山乃白ゆいそ作保姫深跡一きん
瀧下類名

勝乃系よぬきつあつとあつとあつとあつとあつとあつと
隣家類名

山乃花とよあつとあつとあつとあつとあつとあつと
春残二日とよあつと

三月盡
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

山三月盡
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

夏

六徳申して仰ぐ時更衣の心とよみ侍

夏衣みとり乃多きかゝるせば心持らわはしうら

更衣 大納言実國の合

言のたまひ花とふらふかきね春れは

卯花

秋さあつはおもわれしうけまきひ小座の神護は

暮見卯花 上林苑

おもをれ卯花とふらふかきね春れは

卯花 要経おた家守合

卯花乃返杯さるべきりお月動おまはし

卯花隔水

うらむれ川の垣終るまゝぬれかかむを海う渡り

夜々移門

いづれに舟かかき無火のみおぬれは

旅宿郭云

衣さへ思ひし事そまぬ思ひり

月前卯花

照月の色をうけてうらむれ下ば

田中卯花

乃やめあふくよふ身とおむれ

人待郭云

子規啼けりしころ人なきをいふもやうなまじきあはれ
待杜鵑 云通ひすそ金中

あまはるけりしと人なきしんじのあはれけりしあまのあはれ
文章

男廉少く交那のまよと分りしあまのあはれけりしあまのあはれ
明雀友とれさる此のあまのあはれけりし

かこしこと我乃乃とらふあまのあはれけりしあまのあはれ
竹風夜冷

とれくあまのあはれけりしあまのあはれけりしあまのあはれ
竹乃泣きまじと云ふと懐けり

呉竹乃あはれけりしあまのあはれけりしあまのあはれ
あはれけりしあまのあはれけりし

待きりし我をいふ人あはれけりしあまのあはれけりし
時鳥と云通ひす

あまのあはれけりしあまのあはれけりしあまのあはれけりし
待きりし我をいふ人あはれけりしあまのあはれけりし

あまのあはれけりしあまのあはれけりしあまのあはれけりし
待きりし我をいふ人あはれけりしあまのあはれけりし

あまのあはれけりしあまのあはれけりしあまのあはれけりし
待きりし我をいふ人あはれけりしあまのあはれけりし

あまのあはれけりしあまのあはれけりしあまのあはれけりし
待きりし我をいふ人あはれけりしあまのあはれけりし

あまのあはれけりしあまのあはれけりしあまのあはれけりし
待きりし我をいふ人あはれけりしあまのあはれけりし

あまのあはれけりしあまのあはれけりしあまのあはれけりし
待きりし我をいふ人あはれけりしあまのあはれけりし

あまのあはれけりしあまのあはれけりしあまのあはれけりし
待きりし我をいふ人あはれけりしあまのあはれけりし

あまのあはれけりしあまのあはれけりしあまのあはれけりし
待きりし我をいふ人あはれけりしあまのあはれけりし

面れりうきとやとくほも海も又新とて聞て郭云うか
海海時鳥

松共よきとらとさり郭云うか海へいりし鳴かすも松

二位大進清捕家やまし後六月郭云啼とさ

て月けりりあり

かきり宿家とて子規君とていかに海もいりり

うき

時きいれもききあししとて音たさるるまのいりり

深夜時鳥

約きいれ乃んとアんとてわいほとよの秋とてうき

郭云 前巻巻経の家守令

約りつともききりりし子規中氣文あそみうれわつ

夏草 同會

春さてりうふられ海らもまのぼり約れんと海もん

寝覚乃子規の公とてくもる侍りしよ

うき孫れ香よまらふ郭云うき乃そみあめあそ

郭云 法橋寺百首中

時鳥まきしとさきうね我世よあふら乃むれ感る孫

せれ中とささるるけり子規が形しよよれれとてく

一かたさやうふとて郭云も海らうらふきさうは也

霍云ゆえとらありしにゆとて月ありしを孫あそ

野徑子規 範通の家會

あ難致馬寝

心ゆくわきおとらうひんちあふ又海とあまみあ叩そ
寺邊水鶴

連夜鶴河 三行林苑云

河名草深 三葉流河女房よりうけて

小船入はれ細いよらき早れ末きんてりまあうれて

泉 大原やせりへんそひよまきてしむきせんむらぬん

泉邊翫月 大内家舎より

海よりて定井のふと結よこひ毎ほそのうら浩り月

夏月

庭の面はもこのくわよたまたま早きりもあつはる月を

水上夏月

涼亭とちちとちいよふあゆみ底なる魚と月とあつは

水邊納涼

まもれ書もれあふまききし富き乃りしそとらまれ

森邊納涼

名取中を思ひまきよやゆらら信を乃社の陰れし

東月面と云ふよみゆ

あふく一為し乃末形よ新編てあまきうふあつはる月

大井川を子ゆりてはるいゆりよ行き夕涼
と云ふと人よみゆりよ
昔わらわをられ山陰海りきて今そとあせ乃川へ涼よ
夕影乃をを迷懐よよせてよもゆりよ
世の中とてうらまゑなる山里よまきよゆりよ夕夕かと思む
我よとてうらまゑなる山里に夜そ川とて思ふ少くも人
山々の小舟れとてうらまゑなる山里に夜そ川とて思ふ少くも人

秋
萩

うふふくぬ風りきこころ告よとて極て萩そ英あはね
妹乃乃身かひま事をそよめとてうらまゑなる山里に夜そ川とて思ふ少くも人

草花露重

枝よとてうらまゑなる山里に夜そ川とて思ふ少くも人

薄

浅瀬うらまゑなる山里に夜そ川とて思ふ少くも人

大内よとて林中萩とてうらまゑなる山里に夜そ川とて思ふ少くも人

草花催促

世舟をりわられ大井川のよとてうらまゑなる山里に夜そ川とて思ふ少くも人

秋花勝春む

紀魚の家

煉まき色面影よしくしゆく花雪の花色をて後そあけ

因餘秋月

法行の浄會

名ふあつと月二夜とみよそや今年ハ梅をわらう

康拜何方 同

康乃唱方ととえそそあけ分孫今ハ年とあかりきり

争為紅葉 同

しそひゆり人あそ告て先さ記よ立田れ山乃紅葉ととん

残菊失路 同

露まぬく山依乃菊いさうとあつとゆよそそあかりきり

古籬菊萱

ふらゆの毎色と河まて州名れ丸とあつと打所まきり

隣家晚萩

風しきぬ中垣ゆく萩れんとあつとれ時廿四せほつと

待月

出ぬろく山乃あつとふらひんんむらさひ月とあつと

月 此作ちあまて人そそそ續作

秋もさうとる月と山の隈よとらほつとあつと

あつと

月清し今秋そとゆり水底れ玉藻よそそこのあつと

月得秋勝 友大信家會

ひらりと秋乃為とあつとあまそんたせとらとあつと月歌

月 経蔵の奇合

妙所へき垣祓れ書へ先清て在はばとてこの月氣
海色月

任吉れ松の酒より足後と月夜かろくはつらつ山
同 伴賀入道為葉舎

浦傳ひらら松の陰よきて又濃とる月とるが
三井も歎合とゆりきりせくはつりて月と
よみゆりきり

月法も悪少ゆれとれお世よおんてとわん
月 小野文子

秋乃也も我よもつとく又おれ傾月とるあひみり

八月十五夜

名母たるき妹三和と知あつと先みる月よとる思
からふと 奇林苑會

月をぬらぬとれとて海につらとあつと高ぶるん
八月十七夜月つ孫よりと海とく足ゆり
じくひの中將れととら

我乃てもぬらぬ月夜とるあつと先回さる
あ

七十年乃秋よゆひわつとあつととわん月とるあ
経蔵の實薄中と合志ゆりきりよ葉あひて
あつととよあつと

あつととよあつと

新やとひみくし川乃ちきま月とて天大降らん
敷れ住吉よて方合し竹もろよ。社以月んと
一まらよ何ゆと公と住吉乃ち移月よまきてやゆ

月終夜友

左明乃月とて我と何止とて入るぬんはら〜とて思
雲間月

秋とてく後ろくそゆれまろちりちよは移る月と
清浦朝臣家子合よ月以

雲もろく山れくと又まされは月ゆ今そぬまぬぬ
月 子林苑舎よ。

くとりゆくあまらる宿は疎建に秋もまわふ月よん〜ぬら

お形〜と

今秋あれす吹風と身よまあ〜去野れ獄の月と〜後ん
月 重盛つ〜合り

月新よりゆれぬとち思ふらん書ふる〜所ありれ里人
海上見月 右入良家舎よ。

照月と雲が〜とそと秋舟漕我も〜と人よ鳴渡り
関路惜月 同

今月と書〜とりどけおあゆ〜とら足柄の岸と〜とて
旅宿月

雨ふ〜と高ハ〜と孫更斜乃屋よ〜とらせ〜と秋と〜とぬ
九月十三夜 法住寺教舎

はとりより度回海の商人とて秋の月とめくく先
おる公と

かくくらしやま月と合はる又少人幸れと秋とやん
水月 右大臣家奇合

新東も并冥まきつよと海くくくくくくくくくく
あ上月

夕く川くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
野風 右府家奇

かよと河也やま移くむ房秋の都内よりくくくく
曉鹿

秋とあて立きう山れ裾くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

水上月 云通つ家奇

月氣と氷とみきくくくくくくくくくくくくくく
野風 同奇

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
促織虫

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
野宿見月

殊乃形れ花らりくくくくくくくくくくくくくく
江上月 奇林苑奇

いふくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
寄月速懐

乃原朝月月れつゆより久あまううららちしん乳

同 右太九家云

落くぬ山乃流らうる月影の津そ思ふわあつとをり

烟色は月

漕出て月をあらぬんこほや志聖はの浦ハ山のくちり

霜曉月 いらい

別よきんちりも升八月影はれ一すのう庭乃霧くれ

海邊吹霧

貝小むと温干にゆるる部は女うゆを若くはゆふうをり

閑居霧深

あふふとく人々をり麻乃おむをれは葉乃若うりて

寄月述懐

あつらう月れえとろ久あて世丹うう道とあうらいとを

月照巴屋 寺林亮云

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

山姥のうき乃下也ぬめくんをぬく里の時友とく也
夕形一 隆行のまじり合
吾よりく長とをせやくんをく下小海ぬてきり
行路時面

眺みり海ぬり日等無ぬ治上米交約りし人
月前残菊

月とふよ常ふ八仙とが世中に話する才とく白くぬきり
残菊

白菊の又さひつらとともをぬぬ下じとぬきり
月照山雪 左大臣家舎

秋のそとを計りて入るる月とくくくの中

冬月

社きて風少ぬ月とれぬ情とるくくく
たや一 経蔵のり合

月影と凍をくはつ地も乃玉も下やのりく
月影水鳥

流ぬり月乃えよこころに海らわぬぬきり
水上落葉 小白川云

谷川乃う一本の橋よせられくくく
故郷落葉

木葉をよきの都れを乃ぬきり
落葉

新田姫植と深子くれを升のふとあつたへあつたときり
おあー ち林苑へー

梢よは一葉と見して大荒木社の下まの葉はひきり
落葉入簾中

大井川をさして水上落葉とあり
本末少をわぬ井園よりわづ川に枝を丹葉よみ

水上落葉
今よりふたの木葉しりしは新田の川に交付るまで

葉は流渡水へ 龍魚御きり
龍の川に流るる龍魚の御きり

山崎落葉 なることくさるる

木葉を山流れると見えぬとわづらりし

紅葉隈池 龍魚のま

かひきり池のほとりのお葉のむじりくちおとせん

隅岩紅葉

お葉とよふよふゆへに葛城の神乃鳥海にそとん

落葉野馬のま 乾葉のま

本葉らるる宿の板庇くすお葉のまをとも果を

於法儀ちぬ流津無形信向くす合せられ

お葉のま 用路落葉
お葉のま 青葉のま 白川の園

水鳥遊馴

ふと四つが鳥の浮葉れゆる、ほそけりしとせれ水隠とも
同くと 介林苑令

去来流の舟生の川流のわら鴨をたねまきりかきと強と
鳥狩

霧少く更ぬれまよとすかひもさぬらひのちもさぬ人
河色千鳥

東女と孫受てさけし下船やらられ河原よふもなほ
連夜子鳥 観蓮寺合

さゆらまをささうの杉まの浦れ波乃け方よふもなほ
暗く鳥

折渡りり河原のいももさるふもさるしをわらわら
千鳥

香衣の真まもこの名津の海にへる舟よふもなほ
時雨 経感つ寺合

町ぬらま更ぬれまのよせりてわらわらふもなほ
鳥日

越るがて今そらうく久留の宮うつめなほまもま
舟の上ふららん事をさうふらうくくよふわらう白鳥
浮鳥よふもなほ乃若しひねかきてと橋乃くお比ふか
よもなほ越る河られし風情乃若もさるくうらうら

羽居雪 介林苑令

ちれりゆり初に花魚のり
山里の宮を独らるゆりま小君やまゆらん我ちりま
あー

君もやといふか
寄水述懐

氷
わさるやわさるいぬを氷けり
氷

をばねはらうやゆあき茶の池の上と小鴨方やとさあ
わさる人入りとらゆらうとて新し出るま喜れ少りゆ
よさるはちとり下はらうあり
羽もさるちとるか
くわえんはとらゆらうと

あつ切よとみんぬとゆあんと
うさるはちとり下はらうあり

歳暮

賀

くらとみんぬとゆあんと
君氏らるるわら底れとれはる務れぬら旅は路は
おれ
君氏と何よるとんとととと果るるはゆらうと

禁中祝ふと二条院乃神内人よかろつてちか
青よりとまひり若草のよちれと若代あそびさうり
経威つを美原よりそふ命く作りせりよ事よひて
後乃んといふゆあつり

芥乃柄とさひ仙の御来てさうとそ若代世ちか
攝政殿下用流けくせぬして娘而作文和歌
今せよあはれひよあ人入内よめされて射松争
齡はよととけさうまうけ

春の目し開きてい次庭の面れ松乃子幸ふ若ととめや
庭松

ちかよと我とみよとわ若代乃ひさ火道く松さうりん

祝

若代あそびれ信とよあまき地くてもれやゆりあん
寄松後心と 寺林菟舎

行年乃信とりの信れは海松と若くよひよあらひあは
祝 二条院御時女房よりゆりて

あそびあそびとみよと海はち海あそびあまきあそび世と

別

敦頼はつまらふと人ゆらうとらひ人こしあむ
とさあひくらよああ



